

# 点検をする人は、 車好き というよりも 家族好き なんだと思います。



家族の安心・安全のために。  
家族のお財布のために。  
家族が暮らす地球の環境のために。  
日常点検をすることで  
ハッピーになることはたくさんあります。  
もちろんあなたの愛車のためにも。

車は家族の一員です。  
さあ、あなたも日常点検はじめよう。

●自動車の点検・整備のこと詳しくわかります。

点検整備

検索

[www.tenken-seibi.com](http://www.tenken-seibi.com)



2008自動車点検整備推進運動

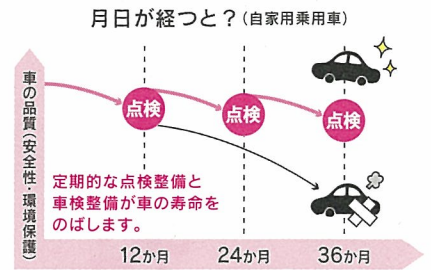
推進：国土交通省 自動車点検整備推進協議会 後援：内閣府 警察庁 環境省 協力：自動車検査独立行政法人 軽自動車検査協会 独立行政法人自動車事故対策機構  
(社)日本自動車整備振興会連合会・(社)日本自動車工業会・(社)日本自動車販売協会連合会・(社)日本中古自動車販売協会連合会・(社)全国軽自動車協会連合会・日本自動車輸入組合・(社)日本自動車連盟・(社)全国自家用自動車協会・(社)日本バス協会・(社)全日本トラック協会・(社)全国乗用自動車連合会・(社)全国レンタカー協会・(社)日本自動車タイヤ協会・全国石油商業組合連合会・(財)自動車検査登録情報協会・(財)日本自動車教育振興財団・(社)日本損害保険協会・全国共済農業協同組合連合会・全国労働者共済生活協同組合連合会・(社)日本自動車部品工業会・(社)全国自動車部品商団体連合会・全国自動車電装品整備商工組合連合会・自動車用品小売業協会・(社)電池工業会・全国ディーゼルポンプ振興会連合会・日本自動車車体整備協同組合連合会・全国タイヤ商工協同組合連合会・(社)日本自動車車体工業会・全国自動車部品販売店連合会・日本自動車部品協会(順不同)

# 快適なドライブは簡単な日常点検から。 しっかり定期点検も忘れずに。

日常点検や定期点検をきちんと行っていますか。

日頃こまやかな点検を行っていれば、運転中のトラブルの多くは回避できます。

クルマの健康管理は、クルマを守るだけでなく、人の命や環境も守ることにつながります。

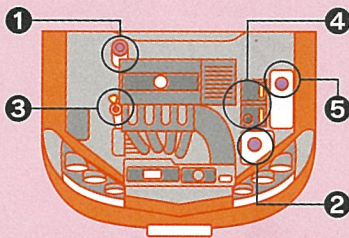


- 日常点検** 日常点検は、日頃、自動車を使用している中で、走行距離や運行状態などから判断し、適切な時期に点検整備を行きましょう。
- 定期点検** 定期点検は、安全の確保、公害防止の観点から、自家用乗用車は12か月および24か月ごとに実施しなければなりません。

## マイカーを点検しよう! 日常点検 15 項目チェックシート

判定 ○ or X

### 日常点検 #01



エンジンルーム 5項目



#### ① ブレーキ液の量

ブレーキ液のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。液量が下限ラインより低い場合は、安易に補充せず、早急に整備のプロに相談しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ② 冷却水の量

冷却水のリザーバ・タンクを見て、液量が上限ラインと下限ラインの間にあるかどうかを点検します。この冷却水が下限ラインに近いが、それより少ない場合は、上限ラインまで冷却水を補充しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ③ エンジン・オイルの量

エンジンに付いているオイル・レベルゲージを抜きとり、付着しているオイルを拭きとってから、ゲージをいっぱい差し込み、再度抜きとってオイルの量を見ます。ゲージの先端についている2本のラインが、ギザギザ部分の目印の中間にオイルがあれば合格です。ゲージの下限ラインよりもオイルが下側にあるときは補充しましょう。また、汚れている場合は交換しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ④ バッテリー液の量

バッテリーの液量が規定の範囲(上限と下限の間)にあるかを車両を揺らすなどして点検します。バッテリー液は腐食性が強いので、体、衣服、車体などに付着しないよう注意しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

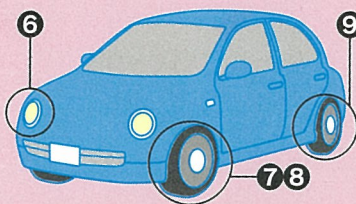


#### ⑤ ウインド・ウォッシャー液の量

ウインド・ウォッシャー液の量が適当かを点検します。液量が少ない場合は上限まで補給しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

### 日常点検 #02



外回り 4項目



#### ⑥ ランプ類の点灯・点滅

クルマにはヘッド・ランプ、車幅灯、ストップ・ランプ、テール・ランプ、ウinkerなど、多くのランプが付いています。点灯・点滅の有無を確認し、レンズの汚れや損傷も調べましょう。点灯・点滅していない場合は、すみやかに交換しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑦ タイヤの亀裂・損傷の有無

タイヤの亀裂や損傷の有無を目や手で確認するとともに、タイヤに異物が付着していないかを入念に点検します。タイヤにかみ込んだ異物はきれいに取り除きましょう。また、タイヤが片減りしている場合は要注意。整備のプロに相談しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑧ タイヤの空気圧

タイヤの接地部のたわみ具合を目で見て判断しましょう。接地部のたわみ具合で判断ができなければタイヤゲージを使って点検しましょう。タイヤの空気圧が不足している場合は、指定空気圧まで補充しましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

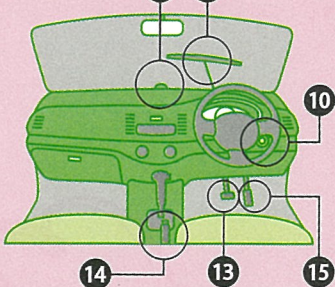


#### ⑨ タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さが浅くないかをタイヤの接地面のスリップ・サインを目印に、チェックします。スリップ・サインは溝の深さが1.6mm以下になると、現れます。溝の深さが足りないと、スリップしやすくなり、雨天走行時はとても危険です。サインが現れたら、早急にタイヤを交換しましょう。※スリップ・サインは、タイヤ側面の三角マークのある位置の接地面に出現します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

### 日常点検 #03



運転席 6項目



#### ⑩ エンジンのかかり具合・異音

エンジンが速やかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。また、エンジン始動時やアイドリング状態で、異音がないかを点検します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑪ ウインド・ウォッシャーの噴射状態

ウインド・ウォッシャー液を噴射させ、ワイパの作動範囲に噴射されるかチェックします。また、その向きや高さが適当かを点検します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑫ ワイパの拭き取り能力

ワイパを作動させ、低速および高速の各作動が不良でないかを点検します。また、ウインド・ウォッシャー液がきれいに拭き取れるかを点検します。ワイパのから拭きは、ガラスを傷つけますので、ウインド・ウォッシャー液を噴射してからワイパを作動させましょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑬ ブレーキの踏みしるときき具合

エンジンをかけて異音がないかがどうか確かめたいとき、ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、床板との間(踏みしろ)が適当かどうかを確認します。また、その踏みごたえがいつもと違うと感じたら要注意です。踏みごたえの違いの判断は、新車時や定期点検直後のブレーキペダルのフィーリングで判断するといでしょう。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑭ 駐車ブレーキの引きしろ(踏みしろ)

駐車ブレーキをいっばいに引いた(踏んだ)ときに、引きしろ(踏みしろ)が多すぎたり、少なすぎたりしないかをチェックします。ブレーキペダルと同様に、新車時や定期点検直後の違いを比較してください。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------



#### ⑮ エンジンの低速・加速状態

エンジンを暖機させた状態で、アイドリング時の回転がスムーズに続くかを点検します。次に、エンジンを徐々に加速したとき、アクセルペダルに引っ掛かりがないか、スムーズに回転が上がるか、走行するなどして点検します。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
--------------------------	--------------------------

※ 自家用乗用車の定期点検は、1年ごとに点検を行う項目が細かく決められており、整備のプロにまかせたほうが安心です。